

卒業式・修了式告辞（令和元年度）

筑後川の堤に新芽を誘う^{いざなう}そよ風が吹くこの早春の日に、令和元年度久留米工業高等専門学校本科第五十五回卒業式並びに専攻科第二十六回修了式を挙行できますことについて、教職員一同、まことに喜びに堪えません。

しかしながら、本年度の卒業式・修了式では、ご来賓の皆様のご臨席と保護者の皆様のご列席をいただくことができず、遺憾の極みであります。WHO（世界保健機関）は昨日パンデミックの宣言を出しました。この新型コロナウイルス感染予防という社会的責任と列席者の皆さんや学生・教職員の皆さんの安全を考え、断腸の思いでその決断をいたしました。異例尽くしの卒業式・修了式になってしまったことについて言葉ありません。

まず、終業式の校長講話でも触れましたとおり、今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関しては、感染拡大のスピードを抑制する国内外の様々な対策が功を奏することを強く願うとともに、これまでの感染症や難病の克服の歴史と同様に、医学・生理学の研究者、医師、医療技術者、その他関係各位の頭の下がる弛まぬご尽力によって必ずやこの世界的な危難が打開されるものと信じています。

報道によれば、すでに横浜市立大学では、新型コロナウイルス感染症患者の血清中に含まれる抗体の検出に成功したとのことであります。今後、この成果に基づいて同ウイルス感染症の効果的な診断方法の確立やワクチンの開発と実用化に繋がっていくことを期待したいと思います。やはり、そこでも、大きな力を発揮するのは、医学・生理学という科学（science）の深化とともに医療技術（technology and engineering）の革新だと考えます。技術科学を学んだ卒業生・修了生の皆さんの中から、将来、何らかの形で、この人類史的な事業に貢献される人が現れることを願うものであります。

さて、本校の教育理念が、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」であることは、よく承知されていることと思います。皆さんは、この教育理念に基づいて周到に用意されたエンジニア育成のためのプログラムを、正課においても、また課外においても、立派に修得され、卒業・修了を迎えられました。

とりわけ、本科卒業生の皆さんのほとんどは、私が校長として本校に赴任した年に入学されました。このように立派に成長された姿を拝見し、感慨ひとしおであります。

ご卒業・ご修了の^{はなむけ}餞として、本校の教育理念が謳う「自立の精神」についてお話したいと思います。

現在の本校の教育理念は、平成10年8月に当時の第5代校長谷口宏先生宛に「教育理念検討委員会答申」（委員長入江和隆助先生・現小郡市議会議長）が提出され、定められることになりました。「答申」には、『広い視野』には国際性も、『豊かな心』には環境に対して取り組む姿勢も含まれると解釈」できることが付記され、さらに教育理念の補足説明として「社会に貢献できる技術者には、社会性と豊かな感性を兼ね備えた人間性の涵養が求められる。また、自立の精神をもって積極的に学習に取り組み、物づくりの体験を通じた独創的で実践的な技術者の育成を目的とする。物づくりとは実験・実習ならびに各種コンテスト等への積極的な参加、即ち社会との接点を持った教育体験を意味している。」との文章が掲げられています。

教育理念を構成する「自立の精神」（Spirit of Independence）、「創造性」（Creativity）、「広い視野」（Broad Vision）、「豊かな心」（Humanity）そして、「社会貢献」（Contribute to Society）という5つの概念の中で、学生の皆さんにも、教職員の方々にも、最も親しまれているのは、「自立の精神」ではないかと思います。しかしながら、この「自立の精神」を真の意味で貫くことは、必ずしも容易ではありません。

せん。「自立」とは、自らの力で考え、判断し、行動できることだと言ってよいでしょう。しかし、そのことが、ともすると、社会の中で「自我」を押し通すことや、結果として「孤立」することに陥ってしまうことがあるからです。「自立の精神」は、そうしたことは全く無縁だと言えます。テクノロジーやエンジニアリングは、社会の中で成立し、社会に役立つことを目指しています。「教育理念検討委員会答申」の補足説明が言うように本校が育成をめざす技術者が備える「自立の精神」は、「社会との接点を持った教育体験」を通して育まれ、最終的には「社会貢献」に繋がるものでなければなりません。

「自立の精神」と技術者倫理との関わりについても触れておく必要があります。哲学研究者の村田純一先生は、第二次世界大戦直後に非業の最期を遂げた哲学者三木清の「技術哲学」を語る中で、

「「技術倫理」「工学倫理」という言葉がしきりと用いられるようになっている現代から振り返って見ると、興味深いのは、三木が技術の社会性を強調すると同時に、いちはやく技術と倫理、技術と道德のあいだの内在的関係をとらえていた点である。」「…技術は一定仕方で倫理を要請することが指摘される。言い換えると、技術を習得することは必然的に一定の行為の仕方を学ぶことであり、それはすなわち一定の規範を学ぶことでもある。ゲーテが『ウィルヘルム・マイスター』のなかで人間の道德的感性に対して技術のもつ意義を強調していたように、人間は技術に従事することによって一定の徳を学ぶことができる点が指摘される」（『技術の哲学』）

と述べています。すなわち、技術を学ぶことによって、技術そのものの規範とともに、倫理や道德等の社会的規範をも修得することになるということであります。それは、自ら考え、判断し、行動すること、自ら立つと書く「自立」が、自らの行為を自らの規範で律すること、自ら律すると書く「自律」へと飛躍、質的に変化したことを意味しています。

卒業生・修了生の皆さんが、今後、皆さんの学び舎であった久留米高専の教育理念の「自立の精神」を思い返す時、「社会貢献」や「技術者倫理」についても考えを巡らせ、さらには、自ら立つ「自立」は、突き詰めれば自ら律する「自律」と同義となることを肝に銘じることを願っています。

最後に、ご家庭の経済的な事情により、不本意にも久留米高専を途中で退学することを余儀なくされながらも、その後苦心されて逆境をはねのけ、博士号の学位を取得されるとともに、現在超精密軸制御技術に秀でた企業、株式会社ピーエムティーの代表としてご活躍されている京谷忠幸さんの言葉を引いて告辞を結びます。

「謙虚にして、驕らず、さらに努力を」

卒業生、修了生の皆さん、引き続きご研鑽あれ！

令和2年3月13日

独立行政法人 国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校長
三川 譲二